

地域産業支援委員会 2020年度第3回例会 議事録

2020.12.30 発行 地域産業支援委員会 委員長 末松正典

1 日時：2020年12月5日（土） 9:30～11:30

新型コロナウイルスの影響のため、委員会はWeb会議（zoom活用）により実施した。

2 場所：委員各位の自宅や勤務先

3. 出欠（敬称略）：味澤、小出、末松、高嶋、田口、長野、西尾、久富、
【出席者、欠席者】 姫野、福田、松尾、松永、八百屋 山田、吉田

4. 議事

1) 各グループからの議題に関する報告・質疑応答・今後の活動内容の確認

(1.1) 2020年度第3四半期の活動報告

◇チーム1：地域産業支援委員会 2021年度活動計画（案）；九州本部提出（資料①-2）

◇チーム2：北九州高専訪問報告「北九州高専のDXに関する技術と連携検討」（資料②-1）

◇チーム3：一金会、二月会、知財交流会がコロナの影響で休止継続中のため報告は特になし。

◇チーム4：産総研オープンデーは現地開催中止。オンライン開催の参加報告
「技術士だより・九州；2021年1月15日号投稿原稿」（資料④-1）

◇チーム5：機械部会 Web 中継（2020.10.9）参加報告（資料⑤-1）

(1.2) 業務体験紹介 or 話題提供「業務体験紹介と話題提供」（資料⑥-1）

5. 配布資料類【以下の7資料】

資料①-0：地域産業支援委員会 2020年度第2回 議事

資料①-1：地域産業支援委員会活動計画及び経過表（2020年度：2020.4月～2021.3月）

資料①-2：地域産業支援委員会 2021年度活動計画（案）

資料②-1：「北九州高専のDXに関する技術と連携検討」（注：当日はpptでの紹介で、資料は後日配布）

資料④-1：「技術士だより・九州；2021年1月15日号投稿原稿」

資料⑤-1：機械部会 Web 中継（2020.10.9）参加報告

資料⑥-1：福田委員による「業務体験紹介と話題提供」

6. 議題に対する結果（決定事項など）：

6.1 各グループの2020年度 第3四半期（9～11月）の活動報告：

1) チーム1「地域産業支援委員会活動全体の運営（会則、例会など）」の活動：

★資料①-2：地域産業支援委員会 2021年度活動計画（案） [末松]

・ 合同役員会（2020.11.27開催予定）で紹介した。

委員の主な変更は、委員長に松永委員に、それに伴い副委員長に末松委員が就任する計画である。

2) チーム2「九州本部・技術相談運用の活性化」 [吉田]

★資料②-1；北九州高専の久池井茂教授の研究室を訪問した。技術士会としての関わり方を考えた（下記）。

・ 北九州高専の久池井茂教授の研究室を訪問した。技術士会としての関わり方を考えた（下記）。

・ 三島興産の関連会社である“ミシマOAシステム(株)”の社長は溝田カ三氏。北九州高専に共同研究室を持つ。客員教授として就任している落合誠司氏「DX時代の生産性向上設備事例紹介」を講演。

・ 久池井教授は「産学官連携デジタルものづくり」を講演。

本研究室では主に、機械、制御、情報という3つの工学を柱としてそれぞれの技術・ノウハウを融合し、産業界に展開する研究を行なっているので、ある機会に講演いただくことも考えられる。

3) チーム3「外部機関との連携強化の継続」

★前回同様に、二月会、一金会、知財交流会はコロナ禍で休止継続中。再開後参加・対応することとした。

4) チーム4「地域産業支援の実績づくり」[末松]

★資料④-1：九州・沖縄産業技術オープンデーへの参加：

- ・同オープンデーの開催に当たっては、技術士会九州本部は後援組織の一つである。
- ・例年、会場において展示と共に技術相談コーナーを設けて相談に応じているが、コロナ禍の中、すべてがWeb上の講演や展示となった。その出展状況を「技術士だより・九州（2021.1.15号）」で紹介することとした。

5) チーム5「地域産業支援能力向上のための研究と講習の継続実施」[末松]

★資料⑤-1：機械部会 Web 中継（2020.10.9）参加報告。以下の講演を聴講した概要を紹介し意見交換した。

- ・講演者：横田英靖（エネルギー・アイ研究所 代表）
- ・演題：水産都市の環境・防災まちづくりに向けた地域エネルギーシステムについて
（コージェネレーション[CGS]を中核とした場合の検討）
- ・概要：LNG サテライト供給とガスエンジンによるコージェネレーションの紹介である。

6. 2 業務体験紹介 or 話題提供 [福田]

★福田委員から「業務体験紹介と話題提供」と題して、以下のような内容の紹介があり、質疑応答を行った。

- ・EPC事業へのかかわり；EPCとは、Engineering（設計）、Procurement（調達）、Construction（建設）を請け負う事業。建設業でいうゼネコンと同様なもの。国内有力企業は、日揮（JGC）、千代田化工、東洋エンジニアリング（TEC）、MHI、IHIなど。海外ではBechtel、GE、シーメンス、現代、三星、大宇などがある。
- ・火力発電所の特徴：
 - (1)石炭・原油炊き；ランニングコスト安価、付帯設備が多く、工期は長い。100%出力まで24H程かかる。
 - (2)コンバインドサイクル：ランニングコスト高価。石炭炊きより熱効率は良く、100%出力まで4H程でよい、
- ・FCB（Fast Cut Back）：突然消失した負荷と等量のエネルギーを放出させて、タービンが適正回転数に収まるように対処すること。台風時家屋損壊などにより突然負荷がなくなった場合に必要な技術。発電所が突如系統から切り離された時、発電所内で必要な電力を自発電所の発電機から供給する事で運転を継続し、短時間で発電所再起動が可能になる。
- ・事故解析：電圧、電流の波形から、発生した事故の原因を解明する。

以上